

## シグマ研究委員会 昭和60年度第7回 運営委員会議事録

日 時 昭和61年3月14日(金) 13:30~17:30  
場 所 原研本部第5会議室  
出席者 鹿園(委員長, 原研), 中沢(東大原施),  
五十嵐, 河原崎, 菊池, 長谷川, 松浦(原研)  
オブザーバ: 飯島, 川合(NAIG), 松延(住友原工),  
若林(動燃), 浅見, 中川(原研)

### 配布資料

1. 前回議事録(案)
2. IAEA Advisory Group Meeting on Nuclear Data for Fusion Reactor Technology
3. シグマ研究委員会旅費使用状況
4. データ等の提供基準検討小委員会中間報告
5. 核データ研究会準備小委員会関係資料
6. 1988年核データ国際会議準備委員会関係資料
7. 特殊目的核データファイル作成に関する答申
8. 諮問・調整委員会関係資料
9. シグマ特別専門委員会内規
10. 核融合核データWG資料
11. JENDL-dataの使用経験情報の集積機関及び利用分野を横断する討論の場の必要性
12. JENDL fileとしての認定boardの必要性
13. JENDL-3以降の計画検討小委中間報告
14. 中・重核データサブWG報告
15. ガス生成核データサブWG資料
16. FP核データWG資料

17. 鉄／ナトリウム多重層体系の実験解析 JENDL-2による解析
18. 遮蔽ベンチマーク実験解析に基く JENDL-2ナトリウム断面積の積分テスト

## 議 事

### 1. 前回(61.1.31)議事録確認

資料1により確認を行った。

### 2. 事務局報告

#### (1) 61年度委員発令

委員発令の経緯の説明とともに本委員(シグマ特別専門委員)についての投票手続きを行っていない事情の説明があった。61年度の本委員には梅沢氏(原研)に残ってもらい、化学部の代表として岡下氏(原研)を加えることの提案があり了承された。

#### (2) 61年度実行予算

概要の説明があり、その中でシグマ委の旅費が減額になったこと、WG会合の回数を減らす必要のあること等の話があった。

#### (3) 60年度旅費使用状況

資料3により報告があった。

### 3. Advisory Group Meeting on Nuclear Data for Fusion Reactor Technology の出席者について

五十嵐氏から資料2の説明とともに、この会合に前川氏(原研)が出席することになったとの報告があった。

### 4. データ等の提供基準検討小委員会

浅見氏から資料4により小委員会での討議についての中間報告があった。これに対して討議が行われ、基準案の文の表現上の問題について多くの意見があり、小委員会でそれらを考慮して再検討してもらうことにした。

### 5. 核データ研究会準備小委員会報告

五十嵐氏から資料5により3月3日の会合の概要について説明があり、その中でテーマの概要、日程を11月11~13日に予定していること、準備委員候補者等について報告があり了承された。また、1st circularをアジア地域の諸国へ出したこと、中国の蔡氏に手紙でテーマ等の意見を聞いている等の報告があった。

## 6. 核データ国際会議準備委員会報告

五十嵐氏から資料6により1988年核データ国際会議準備委員会の答申について説明があった。これで準備委員会は終了し、組織委員会に切り替えてゆくが、現在根廻し中であるとの話があった。鹿園氏から、原研の主催でやることで原研の理事会の了承をえたことの報告があった。また科技庁は後援、動燃、原産は協賛となること、民間からの寄付は原産が窓口になって何れお願いすることになるとの説明があった。

## 7. JENDL-3以後の計画検討小委員会報告

中沢氏から資料13により、当小委員会でのこれまでの討議経過ならびに今後の予定についての中間報告があった。これに関連して、特殊目的核データファイル討論小委員会の答申との関係、JENDL-4についての考え方、ENDF/B-V1との関連について質疑応答があり、また、データ改善のための今後の検討の進め方等について議論が行われた。

## 8. 特殊目的核データファイル検討小委員会の答申について

飯島氏から、添付資料を改訂したこととともに答申書の主旨について資料7により説明があった。これに対して次のような質疑応答、討議が行われた。

- JENDLとは別か？—JENDLの特殊目的ファイルとなる。
- ORIGENについての要求は？—利用者の要求は一般に明確になっていないので、こちら側でデータを作つて示さないとだめである。
- 良いものができたことを示せば影響力は大きい、臨界ハンドブックが良い例、ハンドブックにのると非常に有効である。
- Photon reaction データの要求は？—核融合の分野からの要求がある。加速器からのニーズにはわからない。
- 核燃料サイクル関係は今やらないとだめである。  
ニーズについてのスケジュールがわかると良い、MGCLの中身をJENDLに置換えてゆくことになっている。
- データの authorization はどこでやるのか、学会か？—企画委で検討のための小委員会をつくってもらったらどうか。

- COMRADとORIGENとの差異について
- コード委員会でテストにJENDLを使ってもらったらどうか 等々。

答申についての action は JENDL-3 以後の計画検討小委員会からの答申と一緒にして決めることにし、特殊目的核データファイル検討小委員会は解散することにした。

#### 9. 質問・調整委員会への依頼事項

五十嵐氏から、資料 8 をもとに質問・調整委での60年の討議内容の説明とともにシグマ特別専門委員会の内規が実状に合わなくなってきたので内規の検討が必要であるとの説明があった。資料 9 の内規をもとに、特別専門委員会と研究委員会との関係学会での連絡会の性格、特別会合との絡み、委員の選出方法等について議論があり、これらについては質問・調整委で審議してもらうことにした。

#### 10. 61年度専門部会活動

##### (1) 中・重核データサブWG

松延氏から最近の状況について資料14により報告があった。

##### (2) ガス生成核データサブWG

飯島氏から資料15により61年度計画について説明があった。

##### (3) FP核データWG

川合氏から資料16により60年度の活動経過と61年度の計画について説明があった。これに関連して、JENDL-3用のFPファイルについて議論があった。61年度に終了したものでJENDL-3とするのが良いとの意見があり、データ評価ーファイル化の作業の外注について討議が行われた。

##### (4) 遮蔽定数サブWG

川合氏から資料17により JENDL-2 による鉄・ナトリウム体系の解析について報告があった。また、資料18により JENDL-2 のナトリウム断面積の積分テストではとくに問題のないことが判ったとの説明があった。

次回は4月25日(金)に原研本部で行うこととし、専門部会WGリーダ全員に出席してもらいWG活動の進め方を中心に討議することにした。